

A. コースワークの充実・強化

④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

●横浜国立大学 国際社会科学研究所企業システム専攻
「ビジネス・ドクター育成プログラム」の事例 <人社系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

本プログラムでは、博士課程前期や学部で開講されている英語による専門教育の聴講・履修、海外の研究者を招聘した研究会への参加、海外の学会での研究報告、海外のビジネススクールとの交流プログラムへの参加などを通じて国際コミュニケーション能力の育成を行ってきた。ただし、有職者の勤務の都合、単位化の困難さなどもあり、有職者が有効に活用することができないケースも見られた。

苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

日本企業ではグローバルに活躍している有職者が急増しているが、本プログラムの入学者でも国際的な業務を行っている有職者が予想以上に増加してきた。国際コミュニケーション能力の育成には主に補完的プログラムで対応してきたが、単位化を中心にさらに充実を図る必要性が指摘されるようになった。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

国際コミュニケーション能力の育成については、本プログラム期間中に実現できなかったものを精査し、平成 25 年度から英語プログラム科目（Writing、Presentation、Discussion）、英語専門科目、グローバル・フィールドワークなどを導入することで、さらに教育プログラムの充実を図っていく予定である。